

2013 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	文学部
評価基準 7	教育研究等環境
点検・評価項目(4)	7-4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
	ティーチング・アシスタント (T A) ・リサーチ・アシスタント (R A) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備
	研究会、セミナー、シンポジウム等の開催および学術雑誌の刊行状況
点検・評価項目(6)	7-6 教育研究等環境の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

7-4	ティーチング・アシスタント (T A) は、教育学科を除き配置 (日本文 1 名・中国 3 名・英文文 3 名・書道 2 名) し、1・2 年生の通う東松山キャンパスでも週一回以上待機する等の学生の教育指導上の対応を行っている。 各学科における学会が 2 回開催され、学部附置の人文科学研究所主催の研究会、シンポジウム等を各 1 回実施している。各学科の学会・人文科学研究所ともに毎年学術雑誌の刊行を行っている。
7-6	各学科の資料室中心にティーチング・アシスタント (以下、T A) がおり、学科主任中心に T A の指導を行っている。また、学部の教務委員会を中心に、学部全体の T A を集め懇談会を行っている。

【効果が上がっている事項】

7-4	学生の指導上、サポート体制が整い、有益である。
7-6	

【改善すべき事項】

7-4	東松山校舎は現在、工事中でもあり、場所 (T A ルーム) が移動したが、案内表示等に難がある為に改善が必要である。また、広報については検討すべきである。学部単位の取り組みにより、教員・学生共に他分野への関心が広がっている。学生の関心をより高めるよう、広報の工夫が大事である。F D に関する行事を継続的に行うことによって、教員相互の意識も高まって来ているが、より充実させていきたい。
7-6	

III 本項目の根拠資料 (データ類、裏付けとなる資料)

--

【2014 年度からの達成目標】

【達成目標】 目標の進捗状況は、「S : 完全に達成」 「A : 概ね達成」 「B : やや不十分」 「C : 不十分」 で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価					
			2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～ 2018)	T A ルームの改善。 ・学生が入りやすい雰囲気を作る。 ・必ずしも、専門科目に限らない相談内容を持つ場合もあるため、T A の指導を行う必要もある。	・文学部全体の T A の懇談会における意見。 ・学生の意見	→					
	14 年度 目標	・ T A ルームの改善 (学生が入りやすい雰囲気を作る。T A の指導を行う。よりよい広報を実施。)	→					
	・人文科学研究所、大学院文学研究科との共催で、シンポジウムを開催是非の協議を開始する。	学部長・研究所長・研究科委員長の三名による協議	→					